

【緑地の樹】

イイギリ <飯桐>

プロフィール：ヤナギ科イイギリ属

緑地中央広場右側の山側に立っています。

<飯桐>は葉が大きく(長さ10～20cm、少しハート形状)昔は飯を包むのに利用したことからこの名前が付いたらしい。

暖地の山中に生える、10～15mの落葉高木で、枝は放射状に大きく張り出している。樹皮は裂け目のない灰白色。葉は互生し、裏面は白っぽい。雌雄異株。

4～5月に黄緑色の多数の小さな花が枝先に長く垂れ下がって咲く。

秋から晩秋に、少しバラけた小粒のブドウの房状の真っ赤な美しい実が垂れ下がり、葉の落ちた後まで残るのでよく目立つ。

西緑地のこの樹は、中央広場の物置を背にして左前方の斜面下の林から生えているが、実の季節の外は他の緑に紛れて目につきにくいです。私が「あれ、何？」と初めてイイギリに気付いたのも、その赤い実でした。

西緑地のイイギリは雌株だったんですね。

(星)

